

事業所名

特定非営利活動法人 FORTUNA

支援プログラム（参考様式）

作成日

2025 年

3 月

31 日

法人（事業所）理念		社会において困り事がある子どもたちを取り巻く環境は、厳しいと言わざるを得ない。その中で子どもたちが生き抜いていくためには、集団生活に慣れ、将来的に出来るだけ自立した生活をおくることが出来ることが望まれる。そのために困り事がある子どもたちの「できた」「できるようになった」を1つでも多く増やすことができるように、プロ意識をもって子どもたちの教育や療育に取り組んでいく。		
支援方針		子どもたちの「できた」「できるようになった」を1つでも増やすために、個別的な支援ではなく「社会性の獲得」のための集団療育支援と、小集団における公認心理士・臨床心理士による「認知機能向上のためのコグトレ」による専門的支援を2本の柱として行っている。		
営業時間		サービス提供時間（放課後）14時～17時（学校休業日）10時～16時	送迎実施の有無	あり なし
		支 援 内 容		
本人支援	健康・生活	挨拶・謝罪・お礼など、社会生活において必要なことをSSTやABAを用いて行っている。また、プログラム間の切り替えにおいては、小学校と同じようにチャームを用い、気持ちと行動の切り替えが難しい子どもにもわかりやすく説明し、小学校での生活に活かせるように行っている。言葉が入りにくい児童に対しては、その児に伝わりやすいように可視化した教材を用いて療育も行っている。震災等に関して年に3～4回の避難訓練の実施、子どもの緊急時に対応するため、教室内にAEDの設置、救急隊員による年に一回の職員のCPR講習を実施している。		
	運動・感覚	各種運動の指導者資格がある者が、週のプログラムの中に「運動」を組み込み、運動が苦手な子どもでも取り組めるように配慮している。また感覚統合が苦手な子どもたちに対しては、基本となる感覚系（視覚・前庭覚・固有受容覚・触覚・聴覚）を刺激し整える運動療育を行っている。また、公認心理士・臨床心理士による認知機能向上トレーニング（コグトレ）を専門的支援の一環として行い、運動系とは別にビジョントレーニングを含む感覚系の療育を行っている。		
	認知・行動	公認心理士・臨床心理士が主体となって3～4人の小集団をつくり認知ソーシャルトレーニング、認知機能強化トレーニング、認知作業トレーニングなどをコグトレとして行っている。その中でも特に社会面において将来必要となるであろう認知ソーシャルトレーニングには、力を入れている。学習面においては、児の能力が個々違うため教材を持参していただき、学習の時間中は元教師、教員免許所持者が対応している。		
	言語 コミュニケーション	集団において、公認心理士・臨床心理士・教員免許所持者を中心に、療育時間中は子どもたちと常に会話をする事を心掛け、その会話を通して、子どもたちの学校や日常の様子を把握するように努めている。また療育プログラムの中に、文章を書くこと・読むこと・考えることなどを中心としたものを取り入れることにより、上手なコミュニケーションの取り方を学んでもらうようにしている。		
	人間関係 社会性	社会に出て行く準備のため、小学校での生活と同じように、個別ではなく集団での生活において他者のことを考えるため、SST（ソーシャルスキルズトレーニング）を中心に教育・療育している。また挨拶・謝罪・お礼など、社会生活において必要なことをABAを用いて行っている。		
家族支援		個別支援計画についての説明時以外に、要望があれば面談は随時受付けている。また、送迎時に当日の活動の様子を職員が保護者に直接伝え、その他に連絡帳アプリを用いて様子を伝えと共に、相談事なども受付けている。	移行支援	弊社利用者が小学生のみのため、就労移行支援は行っていない。
地域支援・地域連携		地域の町内会などに属し、私たちの活動について周知している。また、地域の企業と連携し、発達性協調運動障害がある子どもたちの為に安全なグラウンドの使用に協力いただいている。	職員の質の向上	日々自己研鑽および社内研修は常に行っている。また外部の研修会への参加も支援し、資格取得のための補助も行っている。
主な行事等		毎週の療育プログラムにおいて、土・日など時間的に余裕がある場合は、公共の場所（外食・買い物・観覧等）に出向キルールやマナーを理解してもらい、実践させている。また、年に数回の野菜の収穫作業、警察署や消防署に見学に行くプログラムも取り入れている。3ヶ月に1回の割合で、防災訓練の実施や救急隊員によるAEDの講習会にも参加している。		